

2026S01	基礎分野	形式	講義
授業科目名	生命科学	単位数	2
担当教員	吉田 裕輝	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 科学的な思考・知識を身につけることは、歯科衛生士にとって歯科医療にたずさわる上で、必要不可欠な要素である。特に医療に関して言えば、人体の構造や機能を理解する上での基礎となる。生命活動について基本的な事項から、最近明らかとなってきた知見も併せて紹介していく。			
【授業計画】 ①”授業概要、人体を構成する要素 生命の単位” ②細胞のはたらき 細胞小器官 ③細胞のはたらき 膜の構造 ④”遺伝子発現からタンパク合成過程 (セントラルドグマ)” ⑤物質の輸送(受動輸送と能動輸送) ⑥組織と器官 上皮組織、支持組織 ⑦組織と器官 筋組織、筋収縮の分子機構 ⑧小テスト、解答解説 ⑨組織と器官 筋組織、神経組織 ⑩糖質の種類とその化学構造 ⑪脂質の種類とその化学構造 ⑫アミノ酸とたんぱく質の種類とその化学構造 ⑬核酸(DNA,RNA)と核酸関連物質の化学構造 ⑭自己複製・細胞周期 ⑮前期総合まとめ(期末試験解説含む)			
学習上の注意	復習に重点をおいて学習すること。私語は慎むこと。 携帯電話、スマートフォン等の使用を禁止する。		
評価方法	期末試験を90%、小テスト10%として評価する。		
教科書 ・ 参考書	参考書”最新歯科衛生士教本 生物学 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 化学 医歯薬出版高校 生物基礎、生物の教科書や参考書”		

2026S02	基礎分野	形式	講義
授業科目名	心理学	単位数	2
担当教員	牧野友亮	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 心理学の基礎を、心理検査やグループワーク、ロールプレイを通して体験し学習する。自己の理解を深め、他者を理解する方法を習得する。それによって歯科衛生士としての患者支援の方法を学ぶ。			
【授業計画】 ①知覚・感覚(知覚成立の基礎・知覚の体制化・知覚の諸相) ②学習・記憶①(学習のプロセス・行動療法・観察学習) ③学習・記憶②(記憶のメカニズム・記憶の病理とゆがみ) ④動機づけ理論(動機づけの機能・動機づけの分類・欲求) ⑤感情とストレス(感情・フラストレーション・ストレス) ⑥パーソナリティ①(パーソナリティの記述・パーソナリティの調べ方) ⑦パーソナリティ②(パーソナリティの異常と障害) ⑧知能(知能とは・知能の測定・知的能力障害) ⑨思考(思考とは・問題解決・創造性) ⑩発達心理学①(発達とは・発達段階と発達課題・乳幼児から児童期の心理的発達) ⑪発達心理学②(青年期・成人期・高齢期) ⑫医療安全とノンテクニカルスキル ⑬心理的安全性・リーダーシップ ⑭カウンセリング・コミュニケーションスキル ⑮試験解説、心理学のあゆみと研究法			
学習上の注意	毎回復習をすること。講義中の私語、タブレット等を触ることは厳禁とします。		
評価方法	期末試験90%、提出物または小テスト10%		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ「心理学」(医歯薬出版)		

2026S03	基礎分野	形式	講義
授業科目名	英語 I	単位数	2
担当教員	坂井 成美	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】			
①歯科衛生士として頻繁に使う語句や表現を英語で表現することができる。 ②作文や発話等を通して自身の英語力を伸ばすことができる。 ③英語を使い、情報を得たり、自身の考えを発信することに興味を持つことができる。			
【授業計画】			
①ガイダンス ②Unit① Appointment ③Unit② At the Reception Desk (1) ④Watch a Video :What Causes Cavities? ⑤Unit③ Before the Treatment (1) ⑥Unit④ At the Reception Desk (2) ⑦Vocabulary Building ⑧Reading : Current Medical English News (1) ⑨Unit⑤ Before the Treatment (2) ⑩Unit⑥ Taking an X-ray ⑪Watch a Video :How Did Teeth Evolve? ⑫Unit⑦ Dental Care ⑬Reading : Current Medical English News (2) ⑭単語テスト、英文フレーズ暗記テスト、英文和訳課題提出、前期のまとめ ⑮前期期末試験解答・解説、前期の振り返り			
学習上の注意	初回ガイダンスでグーグルクラスルームの使い方、音声ファイルのダウンロードの方法を説明し練習します。授業計画は進度により変更する場合がありますが、その際は事前にお知らせします。質問や、連絡事項には、Googleクラスルームのストリーム及び「質問箱」の限定コメントを使います。		
評価方法	すべての課題提出状況と小テスト結果60%、定期試験結果40%		
教科書 ・ 参考書	教科書”English for Dental Hygienists” 歯の健康づくりをサポートする英語表現 萌文書林		

2026S04	基礎分野	形式	講義
授業科目名	英語Ⅱ(医学英語)	単位数	2
担当教員	坂井 成美	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 ①歯科衛生士として頻繁に使う語句や表現を英語で表現することができる。 ②作文や発話等を通して自身の英語力を伸ばすことができる。 ③英語を使い、情報を得たり、自身の考えを発信することに興味を持つことができる。			
【授業計画】 ①前期の振り返り ②Unit⑧ How to Brush Your Teeth (1) ③Crossword Puzzle Vocabulary Building ④Unit⑧ How to Brush Your Teeth (2) ⑤Unit⑨ Smoking and Eating Habits (1) ⑥Unit⑨ Smoking and Eating Habits (2) ⑦Unit⑩ How to Prevent Gum Disease (1) ⑧Unit⑩ How to Prevent Gum Disease (2) ⑨Unit⑪ Dental Health of Infants ⑩Unit⑫ Dental Health Activities ⑪Unit⑬ At an Adult Daycare Center ⑫After Tooth Extratction ⑬Whitening ⑭Watch a Video : I Don't Like the Dentist ⑮後期期末試験解答・解説 後期のまとめ			
学習上の注意	授業計画は進度により変更する可能性もあります。 課題の配信、連絡事項はグーグルクラスルームを使用します。		
評価方法	すべての課題提出状況と小テスト結果60%、定期試験結果40%		
教科書 ・ 参考書	教科書English for Dental Hygienists 萌文書林		

2026S05	基礎分野	形式	講義
授業科目名	国語表現	単位数	2
担当教員	関 明子	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】			
表現する前に「考える」習慣をつける。特に文字となったものは後に残る。したがって、話すとき以上に書くときは慎重にならざるを得ない。そのため、基本的な「読む」「書く」「聴く」「話す」4つの能力のうち「書く」ことにやや大きい比重を置くつもりである。基礎をしっかりと身につけてほしい。 1. 誤読をしない力をつける。 2. 適切な資料を選択し、その内容を必要に応じて文章化できるようにする。 3. 誠実かつ正確に聞き取る。 4. 話す場合も書く場合も「話の流れ」を意識する。			
【授業計画】			
①文(箇条書き)から文章へ ②コロケーション ③ 敬語(尊敬語と謙譲語を中心に) ④プレゼンテーションとは ⑤プレゼンテーションのための基礎知識 ⑥プレゼンテーションの実際と質疑応答(1) ⑦プレゼンテーションの実際と質疑応答(2)反省と推敲 ⑧プレゼンテーションの実際と質疑応答(3)「語ること」と「書く」こと ⑨読解: 要点を意識する ⑩論述: 論理的に述べる ⑪論述: 客観性について考える・資料の探し方 ⑫手紙文の基礎 ⑬手紙文を書く ⑭ビジネスレター ⑮前期末試験解説			
学習上の注意	授業では実際に手を動かしてもらうので、必ず筆記用具は持参すること。筆記用具はボールペンや万年筆がのぞましいが、濃く書ければ鉛筆・シャープペンシルも可。授業中の私語、スマホ、携帯電話の使用、飲食および、他学生の学習の妨げとなる行為は禁止する。ただし、授業の必要性からスマホによる検索は許可する場合もある。		
評価方法	出席率(遅刻率)と参加態度20%、授業中の課題10%、プレゼンテーション20%、期末試験50%		
教科書 ・ 参考書	教科書なし。その都度プリントを配布する。 参考書授業中、適宜紹介する。		

2026S06	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	解剖学	単位数	2
担当教員	湯山 德行	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 解剖学は医学・歯学の基礎となる重要な学問である。歯科衛生士として医療にたずさわる上で、人体を構成する基本的正常構造に関する知識を理解する。生理学と連携して、構造と機能を一体のものとして学習する。			
【授業計画】 ①細胞の構造(細胞の構造と機能・細胞分裂) ②消化・吸収(消化器の概要) ③消化・吸収(消化器の構造と種類) ④血液と循環(血液の組成・血管の構造・心臓の構造) ⑤循環(動脈系・静脈系・リンパ系) ⑥神経系(基本構造・中枢神経系の構造) ⑦神経系(脳脊髄膜・脳の血管・末梢神経系) ⑧神経系(求心性・遠心性伝導路) ⑨筋と運動(筋の微細構造) ⑩感覚(皮膚・視覚器・聴覚器などの構造) ⑪呼吸(肺や気道の構造) ⑫腎機能と排尿(泌尿器系の構造) ⑬内分泌(内分泌腺の構造と種類) ⑭生殖(男女の生殖器の構造/性周期・受精と妊娠・分娩) ⑮フィードバック			
学習上の注意	人体の構造を学習するに当たっては、生物学の知識が必要なので、生物学を復習しておくこと。各講義の復習として配布プリントやノートを整理し、教科書を必ず確認すること。		
評価方法	期末試験(90%)、小テスト(10%)、授業態度による総合評価		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 解剖学・組織発生学・生理学(医歯薬出版)		

2026S07	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	生理学	単位数	2
担当教員	湯山 德行	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 人体は細胞から構成され、組織、器官、器官系とシステムを構築して、人体の恒常性を保っている。 ここでは、歯科衛生士として必要な構造と機能を有機的に学び、全身の正常機能を理解し、歯科医療と全身の関係を学習し、必要な基礎的知識を理解する。			
【授業計画】 ①細胞の基本的生理機能 ②消化・吸収(腹部消化管の機能) ③消化・吸収(膵臓・肝臓・胆嚢の機能) ④循環(血液の機能・心臓の機能) ⑤循環(血管の機能・血圧の調節) ⑥神経系(興奮と伝導・中枢神経系の機能) ⑦神経系(脳の高次機能・自律神経系の機能) ⑧神経系(反射・随意運動) ⑨筋の機能と運動(筋収縮機序・運動単位) ⑩感覚(性質と種類・体性感覚・視覚・聴覚・平衡覚) ⑪呼吸(換気・肺気量・ガス交換・呼吸の調節) ⑫泌尿器(腎臓の機能・尿の生成・体液調節・酸塩基調節) ⑬内分泌(ホルモンの作用機序・分泌調節) ⑭体温調節(産生と放散・発熱) ⑮フィードバック			
学習上の注意	人体の機能を学習するに当たっては、生物学の知識が必要なので、生物学を復習しておくこと。生体の機能は、からだの構造を理解していることが不可欠なので、解剖学・組織学等の知識と一緒に学習すること。各講義の復習として配布プリントやノートを整理し、教科書を確認すること。		
評価方法	期末試験(90%)、小テスト(10%)、授業態度による総合評価		
教科書 ・ 参考書	教科書”歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学”		

2026S08	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	組織発生学(口腔組織発生学を含む)	単位数	2
担当教員	長谷川 博雅	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 口腔疾患を理解するために必要な人体の発生、歯を含む口腔組織や全身組織の構造、および医療人として必要なバイオエシックスについて概説する。口腔疾患の予防や治療法を習得するためには、病態の理解が必須である。そこで、生命の誕生から細胞の発生、口腔や全身諸臓器の発生を理解する。次いで、人体を構成する細胞の基本構造を学び、さらに口腔や全身諸臓器がどのような細胞・組織で構築されているかを理解する。またプロフェッショナルケアの担い手として歯科医療行為を行うための倫理基盤を理解する。			
【授業計画】 ①歯の発生 ②歯と歯周組織の組織構造 ③歯の形態と名称 ④永久歯の形態的特徴 ⑤乳歯の形態的特徴 ⑥細胞の基本構造と発生 ⑦上皮組織の構造 ⑧間葉組織の構造 ⑨顎・顔面・顎骨の発生と組織構造 ⑩消化器系の発生と組織構造 ⑪舌、唾液腺の発生と組織構造 ⑫循環器・呼吸器・泌尿器・生殖器の組織構造 ⑬生命倫理の誕生と背景 ⑭医療人の生命倫理 ⑮試験の解説とまとめ			
学習上の注意	組織学は解剖学や生理学と密接な関係にあり、互いに不可分な関係である。人体を理解するために、これらの知識を絶えず融合させるような自主学習が望まれる。		
評価方法	期末試験、授業中の受講態度などの総合評価		
教科書 ・ 参考書	教科書”歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 「歯科医療倫理学」 (医歯薬出版)” 参考書”ムーア人体発生学(医歯薬出版)		

2026S09	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	栄養学・生化学	単位数	2
担当教員	古谷信一	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 【概要】 食物として摂取した栄養素をどのように消化・吸収し、どのように活用しているかを学ぶ。身体を構成している物質の分子レベルまでを理解し、体内の動的なエネルギー代謝や物質代謝、遺伝子の関与、細胞内の情報伝達の働きを学ぶ。 【到達目標】 栄養の基礎知識と栄養素の働きを理解する。口腔組織に関わる生化学的知識を養う。			
【授業計画】 ①生化学と栄養学の繋がり ②生体の構成要素 糖質・脂質・タンパク質の役割 ③糖質・脂質・タンパク質のエネルギーと代謝 ④栄養素の消化と吸収 ⑤五大栄養素の基礎 ⑥自分の食事の評価と理想の食事をバランスガイドで考える ⑦ライフステージと栄養 成長期における口腔機能発達不全 ⑧ライフステージと栄養 成人期での現状と理想 ⑨ライフステージと栄養 口腔機能低下とフレイル ⑩ライフステージと栄養 健康寿命と平均寿命 ⑪硬組織の生化学 構造と石灰化のメカニズム ⑫硬組織の生化学 吸収と形成・代謝調整 ⑬唾液の生化学 だ液が持つ力 ⑭プラークの生化学ペリクルとバイオフィルム ⑮まとめ			
学習上の注意			
評価方法	期末試験(80%)・提出物(20%)		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ 栄養学(医歯薬出版)、歯科衛生学シリーズ 生化学(医歯薬出版)		

2026S10	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	口腔解剖学	単位数	2
担当教員	本谷安正	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 歯科医療に従事するものとして、歯科医学の基礎として、歯と口腔の構造と機能を学ぶ。 1. 頭頸部と口腔の構造、それを構成する骨、筋、脈管について理解する。 2. 頭頸部と口腔の運動と機能について理解する。			
【授業計画】 ①口腔の構造①(口腔の範囲、口蓋、舌、舌下部) ②口腔の構造②(鼻腔、咽頭、頸部) ③頭蓋骨(眼窩、頭蓋腔、翼口蓋窩) ④口腔を構成する骨(上顎骨、下顎骨) ⑤頭頸部の筋(咀嚼筋、舌骨上筋、舌骨下筋、表情筋) ⑥頭頸部の脈管(動脈、静脈、リンパ管) ⑦神経組織(神経概要、三叉神経) ⑧頭頸部の神経(顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経) ⑨顎関節(構造、顎運動) ⑩顎反射 ⑪摂食と咀嚼(下顎位、咀嚼運動、咀嚼制御) ⑫嚥下と嘔吐 ⑬発声(声の生成、言語野)と唾液腺(構造、成分、調節) ⑭感覚(知覚、痛覚、味覚) ⑮前期期末試験の解説			
学習上の注意	教科書および配布するプリントを持参すること。		
評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)により評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』(医歯薬出版)		

2026S11	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	口腔生理学	単位数	2
担当教員	湯山 德行	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 口腔機能は、呼吸器、消化器、感覚器、発声器の役割をもち、感覚系、運動系、神経系を含めた複雑なネットワークによって構成されている。口腔機能は単に食物を摂取するだけでなく、生体の消化・吸収の入り口であり、発声に重要な役割を果たしており、多様性、統合性の機能を発揮している。また、口腔機能は生きる楽しみと深く結びついており、「生活の質」を高める機能を持っている。歯科衛生士として歯科医療を理解する上での知識だけでなく、患者さんに口腔領域の専門家として説明できるレベルまで知識を理解してもらいたい。			
【授業計画】 ①歯と口腔の感覚 ②口腔粘膜の感覚 ③味覚と嗅覚 ④咬合 下顎運動・下顎位 ⑤顎反射 ⑥咀嚼 ⑦吸啜 ⑧嚥下 ⑨嘔吐 ⑩唾液の分泌機構 ⑪唾液の性状・成分 ⑫唾液の機能 ⑬発声 ⑭構音・言語中枢 ⑮フィードバック			
学習上の注意	口腔の機能は、密接に人体の機能と関係しているので、前期の「人体機能学」を復習しておくこと。 各講義の復習として配布プリントやノートを整理し、教科書を確認すること。		
評価方法	期末試験(90%)、小テスト(10)、授業態度の総合評価		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖・口腔組織発生学・口腔生理学		

2026S12	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	病理学(口腔病理学を含む)	単位数	2
担当教員	長谷川 博雅	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 口腔疾患を理解するために必要な一般病理学総論を先ず概説する。次いで、総論基礎的知識に基づいて、各論である口腔疾患の原因、成立機序、病態、予後や転帰を概説する。このなかで必要に応じて解剖学、組織学、生理学などの基礎的知識の復習を織り交ぜる。さらに口腔疾患と全身状態との関連性についても紹介していく。 本授業を通して、口腔疾患を理解するための病理学的基礎知識を習得し、さらに口腔疾患の予防法や治療法を理解するうえで不可欠な口腔疾患特有の病態を理解し、口腔と全身を相互に関連付けた知識を統合し、プロフェッショナルケアの担い手として必要な総合的な病理学的知識を習得する。			
【授業計画】 ①病理学概論・病因、遺伝性疾患 ②循環障害 ③代謝障害と退行性病変 ④増殖と修復 ⑤炎症と免疫異常 ⑥腫瘍総論 ⑦歯の発育異常歯と損傷 ⑧歯の着色・付着物、う蝕、象牙質歯髄複合体の病変 ⑨歯周組織の疾患 ⑩口腔粘膜病変 ⑪口腔の嚢胞と腫瘍 ⑫口腔がん ⑬顎骨の病変、唾液腺の病変 ⑭口腔領域の奇形と加齢変化 ⑮試験の解説とまとめ			
学習上の注意	病理学は人体の正常構造や機能の逸脱であるので、解剖学、組織学、生理学などの基礎知識のうえに成立する学問であるので、各自の理解度に応じて基礎知識の復習に務めること。		
評価方法	期末試験、授業態度等の総合評価		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」(医歯薬出版) 参考書”病理学総論にもとづく口腔病理学 第3版(永末書店)”		

2026S13	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	微生物学	単位数	2
担当教員	小山 祐樹	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 微生物がヒトに感染することで生じた病気を感染症といい、感染症が生じないようにする生体の防御能を免疫という。本科目では、病気と病原微生物の関係、および免疫機能について理解する。 また、口腔の微生物が起こす感染症について学修する。			
【授業計画】 ①”歯科衛生士業務での微生物学の必要性、微生物学の歴史について説明できる。 感染症について説明できる。” ②”微生物の分類について説明できる。 細菌、真菌、ウイルスの特徴について説明できる” ③細菌の代謝、増殖条件、病原因子について説明できる。 ④主な感染症と病原微生物について説明できる。(グラム陽性菌) ⑤主な感染症と病原微生物について説明できる。(グラム陰性菌) ⑥ウイルスの構造、増殖の仕方、特徴について説明できる。 ⑦主な感染症と病原微生物について説明できる。(ウイルス、真菌) ⑧”免疫の概念について説明できる。 自然免疫について説明できる。” ⑨獲得免疫について説明できる。(体液性免疫、細胞性免疫) ⑩アレルギー、自己免疫疾患について説明できる。 ⑪”口腔環境と口腔常在微生物について説明できる。 デンタルプラークの形成機序について説明できる。” ⑫う蝕、歯周病の成り立ち、原因細菌について説明できる。 ⑬化学療法および滅菌、消毒について説明できる。 ⑭まとめ ⑮解答解説			
学習上の注意	微生物は非常に沢山の種類があり、全てを学習することは難しい。しかし、歯科医学上必要なもの、さらには国家試験に出題される微生物の種類は限られているため、それらについては名前、特徴をしっかりと学習し、今後の臨床的分野の理解を深められるようにする。		
評価方法	試験(90%)、小テストを含む授業態度等(10%)		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ「微生物学」(医歯薬出版) 参考書講義時に資料を配布		

2026S14	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	薬理学	単位数	2
担当教員	藤澤秀男	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 【概要】 薬物は薬理作用をもつ化学物質であり、疾患の治療や予防を目的をして適応される。薬物の性質、薬物による生体への影響を理解し、疾患に対する薬物の作用機序や他の組織への副作用を学ぶ。超高齢社会を迎えた現在、高血圧等の全身疾患に対する薬物を服用している患者が多いため、それらの薬剤の影響と対応を学ぶ。 【到達目標】 口腔疾患に対する薬剤の種類や作用機序を学ぶとともに、全身疾患に対する内服薬が歯科治療へ与える影響を理解し、歯科衛生士として指導ができる知識を習得する。			
【授業計画】 ①薬物の作用・動態 ②薬物の種類と特徴 ③薬物の副作用・取り扱い ④ビタミンとホルモン ⑤神経系に作用する薬物 ⑥循環器系に作用する薬物 ⑦消化器系に作用する薬 ⑧確認テスト/悪性腫瘍と薬 ⑨抗炎症薬 ⑩痛みと薬 ⑪麻酔薬 ⑫抗感染症薬・消毒薬 ⑬う蝕予防薬・歯内療法薬 ⑭口腔粘膜疾患の薬 ⑮後期試験の解説とまとめ			
学習上の注意	薬理学は、疾患予防や治療を目的とした薬剤の作用機序を学ぶ重要な学問であるため、各授業の配布プリントを整理し、教科書と合わせて必ず復習をすること。		
評価方法	期末試験(100%)		
教科書 ・ 参考書	教科書”歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版」(医歯薬出版)”		

2026S15	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	口腔衛生学Ⅰ	単位数	2
担当教員	荒川 浩久	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みの概要と歯科疾患の原因と予防に関する理論と実際を教授するので、それらを身につけ、正しい科学を伝え行動変容を起こすことができる技術をもって、患者教育と指導、ならびに歯科公衆衛生活動を実践できるようにする。			
【授業計画】 ①総論：口腔と健康、歯・口腔の発育と変化、口腔環境 p1～17 ②歯・口腔の不潔：歯の付着物と沈着物、舌苔 p17～25 ③口腔清掃、口腔清掃用具 p27～33 ④歯磨剤、洗口剤、口腔保湿剤 p33～37 ⑤ブラッシング法と特徴、ブラッシングの有害作用、歯垢染色剤p38～42 ⑥う蝕の予防①：う蝕発生要因と機序、初期う蝕と再石灰化、う蝕のリスク評価 p43～49 ⑦中間試験とフィードバック ⑧う蝕の予防②：う蝕活動性試験、う蝕の一次・二次・三次予防 p50～54 ⑨フッ化物によるう蝕予防①：分布、摂取と代謝、急性毒性 p55～60 ⑩フッ化物によるう蝕予防②：慢性毒性、う蝕予防機序 p60～63 ⑪フッ化物によるう蝕予防③：歴史と全身応用、局所応用① p63～67 ⑫フッ化物によるう蝕予防④：局所応用②、予防効果 p67～72 ⑬歯周病の予防：分類、発生と免疫応答、第一次・二次・三次予防 p73～86 ⑭その他の疾患・異常の予防：不正咬合、口臭、歯の損耗・破折、顎関節症、癌 p87～98 ⑮後期期末試験の解説と振り返り			
学習上の注意	予習としてシラバスの授業計画の教科書部分に目を通して、どのような内容かを把握したうえで授業に臨み、終了後は課題に取り組み、できるだけ早い時期に授業プリントと課題の正答に沿って学習目標を達成できるように復習する。		
評価方法	中間試験45%、期末試験45%、課題実行度10%にて評価する		
教科書 ・ 参考書	教科書”歯科衛生士テキスト口腔衛生学 第4版(学建書院)” 参考書歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学(医歯薬出版)		

2026S16	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	口腔衛生学Ⅱ(統計学含を含む)	単位数	2
担当教員	宋 文群	履修年次	3年後期
【授業の概要・到達目標】 【概要】 口腔領域の疾患予防とそれに関わる人間と社会の仕組みを学習する。行政が実施する地域における歯科疾患の予防法や保健にかかわるシステムを理解し、それに必要な情報収集、診断、活動計画の立案、成果の評価法を習得する。 【到達目標】 保健に関連する社会の仕組みを理解するとともに、公衆衛生・地域歯科保健活動の疫学調査で必要な統計方法を理解し説明できる。			
【授業計画】 ①歯科疾患の疫学 ②歯科疾患の指標 ① ③歯科疾患の指標 ② ④歯科疾患の指標 ③ ⑤衛生統計の基礎 ① ⑥衛生統計の基礎 ② ⑦衛生統計の基礎 ③ ⑧歯科保健統計 ⑨地域歯科保健活動 ⑩母子歯科保健 ⑪学校歯科保健 ⑫産業歯科保健 ⑬成人・高齢者・要介護者歯科保健 ⑭災害時と国際歯科保健 ⑮後期試験の解説			
学習上の注意	必要な統計の基礎や手法を理解し、復習や演習を重ねる。授業時には、理解の確認のために適宜小テストを行う。		
評価方法	期末試験(100%)		
教科書 ・ 参考書	教科書”歯科衛生学シリーズ 保健情報統計学 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 保健生態学(医歯薬出版)”		

2026S17	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	衛生行政・医療保険	単位数	2
担当教員	戸川元一	履修年次	3年後期
【授業の概要・到達目標】 【概要】 日本の保健・医療・福祉制度と医事法制の基本を学び、歯科衛生業務との関わりを理解する。歯科衛生士法を中心に、各法律の目的・定義・業務範囲を確認する。また、医療はチームで実施されるという視点を持ち、他職種と連携するために必要な法規(医療法・医師法・歯科医師法・保健師助産師看護師法・社会福祉関連法)を学ぶ。さらに、医療保険の仕組みと関連する略語についても習得する。 【到達目標】 歯科衛生業務に関連する主要な法律の目的・定義・業務範囲を説明できる。チーム医療の観点から、他職種の役割と根拠法規を理解できる。 医療保険制度の基本的な仕組みを理解し、関連する略語を正しく使用できる			
【授業計画】 ①歯科衛生士と法律① ②歯科衛生士と法律② ③歯科医師法、歯科技工士法 ④医療関係職種と法律 ⑤医療制度 ⑥医療法 ⑦医療保険と算定の仕組み① ⑧医療保険と算定の仕組み② ⑨医療保険と算定の仕組み③ ⑩医療保険と算定の仕組み④ ⑪社会保障制度・地域保健 ⑫その他の関係法規 ⑬介護保険法・老人福祉法 ⑭介護保険制度 ⑮後期期末試験解説			
学習上の注意	医療人に求められる基本的素養として、関係法令の名称および主要な規定内容を習得すること。授業資料や教科書を参照しながら、知識の確実な定着に努めること。		
評価方法	期末試験(100%)		
教科書 ・ 参考書	教科書”・歯科衛生学シリーズ「保健・医療・福祉の制度」(医歯薬出版) ・歯科診療報酬入門(医歯薬出版)”		

2026S18	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	公衆衛生学	単位数	2
担当教員	飯田 英代	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 公衆とは社会一般の人々、衛生とは体を清潔にして生命と生活を守ることを意味する。 公衆衛生学では、地域の生活者の健康を維持・増進し、病気を予防するために必要な基礎知識を学ぶ。 歯科衛生士として必要な公衆衛生学の基礎知識を理解し、公衆衛生の向上、増進に貢献する役割がある。			
【授業計画】 ①公衆衛生学の概要 健康の定義 日本人の死亡原因 感染症の歴史 ②予防の考え方 生活習慣と健康・長寿 健康づくり運動 ③人口静態統計 ④人口動態統計 ⑤地球環境と健康、空気と健康 ⑥水質環境と健康 ⑦気候と健康、大気、放射線と健康 ⑧四大公害病 廃棄物処理 ⑨感染症の成立要件・発生動向 院内感染予防 ⑩生活習慣病のリスク要因と予防 ⑪食中毒と予防 食品の安全 ⑫地域保健の仕組みと活動 ⑬母子保健と活動 精神保健 ⑭今までの総復習 ⑮前期期末試験の解説とまとめ			
学習上の注意	授業内容のプリントを配布するので、授業中に解説した事項を書き込み、完成させ理解すること		
評価方法	期末試験(80%) 授業への参加度(20%)		
教科書 ・ 参考書	"医療スタッフのための衛生学エッセンス" 学建書院 / "保健生態学" 医歯薬出版		

2026S19	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	社会福祉論	単位数	2
担当教員	宮崎歌苗	履修年次	3年前期
【授業の概要・到達目標】 社会福祉とは、人間の権利として誰もが有する自己実現(well-being)を社会的に支援することである。現代は、急速に進む少子・高齢化に伴い、さまざまな問題を有している。将来、歯科衛生士として、病院や地域で活動する際、それらの問題に適切に対処していくためには、医療分野での知識だけではなく福祉も含めた統合視点が求められている。社会福祉の理念・制度・対象理解を通して、現代社会における生活課題と支援のあり方を多角的に理解する。			
【授業計画】 ①社会福祉とは ②社会福祉の理念 ③社会福祉の歴史 ④社会保障制度の全体像 ⑤医療保険・年金制度 ⑥介護保険制度 ⑦児童福祉 ⑧児童福祉を考える ⑨障害者福祉 ⑩高齢者福祉 ⑪高齢者福祉を考える ⑫生活保護制度 ⑬地域福祉・社会問題 ⑭歯科衛生士と社会福祉 ⑮まとめ			
学習上の注意	本授業については、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを含めた形式で実施する。 主体的に授業に臨むこと。		
評価方法	期末試験 60% グループワーク・プレゼンテーション・課題および授業態度 40%		
教科書 ・ 参考書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2「保健・医療・福祉の制度」(医歯薬出版)		

2026S20	専門分野	形式	講義
授業科目名	歯科衛生学総論	単位数	2
担当教員	宮崎歌苗	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 【授業概要】 人々の健康づくりを支援する歯科衛生士になるために、歯科衛生学の理論的思考法の基礎を学び、医療人としての基本的態度や、歯科衛生士の業務および役割を学び、社会における歯科衛生士の活動領域を理解する。 【到達目標】 ・歯科衛生士としての職業を理解し、業務の責務を説明できる。 ・歯・口腔の維持・増進は全身の健康の維持・増進につながることを説明できる。 ・歯科衛生士の歴史について学び、歯科医療の現状と歯科衛生士の活動領域を説明できる。 ・歯科医療倫理の概要・医療安全・医療管理を理解し説明できる			
【授業計画】 ①歯科衛生学を学ぶにあたって ②歯科衛生学とは ③歯科衛生士の歴史と現況 ④歯科衛生と健康 ⑤歯科衛生士法と関係法規 ⑥歯科衛生士と倫理 ⑦歯科衛生実践のための理論 ⑧歯科衛生実践の展開 ⑨医療安全確保における歯科衛生士の役割 ⑩保健・医療・福祉の制度と多職種連携 ⑪災害時における歯科衛生活動 ⑫歯科衛生士の国際化 ⑬組織活動 ⑭歯科衛生士のキャリア形成 ⑮総まとめ			
学習上の注意	・授業中の電子媒体(スマホ・タブレット・ウェアラブル端末)の使用は教員の許可がない限り、原則禁止とする。 ・予め教本の対応項目に目を通しておくことが望ましい。		
評価方法	期末試験(80%) 課題, 授業態度(20%)		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学概論」(医歯薬出版)		

2026S21	専門分野	形式	講義
授業科目名	歯科臨床概論	単位数	2
担当教員	小野 将弘	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 歯科衛生士として、実際の臨床現場で患者と向き合うための知識や考え方を学ぶ。 具体的には、診療に際しての心構え、歯科に存在する診療科、歯科診療の現場の設備や実務、歯科医師や歯科衛生士などのスタッフについて学ぶ。			
【授業計画】 ①歯科診療とは ②歯科診療所 ③歯科診療所における業務 ④●ライフステージと歯科診療 ●審査・検査・前処理 ⑤小児歯科 ⑥歯科矯正 ⑦口腔外科 ⑧歯科保存 ⑨●中間試験 ●歯科医師、歯科衛生士の日 ⑩歯周治療 ⑪歯科補綴 ⑫障害者歯科・高齢者歯科 ⑬歯科訪問診療 ⑭消毒と滅菌 ⑮●試験解説 ●まとめ			
学習上の注意	授業開始時に毎回小テストを行います、出題範囲は原則前回講義分とします。 日頃から復習の習慣を身に着けましょう。		
評価方法	小テスト10% 中間試験 30% 期末試験 60%		
教科書 ・ 参考書	歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版 医歯薬出版株式会社		

2026S22	専門分野	形式	講義
授業科目名	歯周病学	単位数	2
担当教員	水田隼多	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 歯周組織の状態,病態や歯周病の治療法,予防法について学習し、歯科医師との共同作業として歯周治療を実践できる歯科衛生士になるために理解を深める。①歯周組織の構造 ②歯周病の原因,リスクファクター ③歯周疾患の分類 ④歯周病治療,予防法 ⑤歯周検査法の種類,方法 ⑥歯周基本治療 ⑦再評価,メンテナンス,SPT を学び、説明や実施できるよう学ぶ ＊ 歯科医師として臨床経験をもつ教員による授業			
【授業計画】 ①歯と歯周組織の構造と機能 ②歯周疾患の分類と特徴 ③歯周疾患の原因 ④歯周基本治療について① ⑤歯周基本治療について② ⑥歯周基本治療について③ ⑦歯周基本治療について④ ⑧歯周外科療法① ⑨歯周外科療法② ⑩歯周外科療法③ ⑪歯周外科療法④ ⑫口腔機能回復治療 ⑬メンテナンスとSPT ⑭ペリオドンタルメディシン ⑮試験の解答,解説			
学習上の注意	歯周疾患の原因,治療法,予防について学習する。1年次含め、歯周疾患に関わる内容を復習すること。		
評価方法	期末試験(90%)、小テスト、授業態度(10%)		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ 歯周病学(全国歯科衛生士教育協議会監修) 参考書臨床歯周病学 第2版(医師薬出版)		

2026S23	専門分野	形式	講義
授業科目名	保存修復学・歯内療法学	単位数	2
担当教員	荒川 真	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 【概要】 う蝕と他の硬組織疾患、およびこれらに継発して発症する歯髄と根尖歯周組織の疾患の種類と病態、検査法、歯の切削法、修復法、根管治療法、ならびに治療に必要な前準備等の総括的事項について理解・修得する。 【到達目標】 ①う蝕などの硬組織疾患の種類、診査法およびリスクファクターについて説明できる。②う蝕・根管治療の準備について理解し、説明できる。③修復・根管治療法の種類と特徴およびメンテナンスを説明できる。④治療器具を説明できる。⑤根尖性歯周炎の診断と治療および必要な器具を説明できる。 *歯科医師として大学病院で歯科治療に従事していた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①歯科保存学の領域と分類および歯科保存治療の対象疾患を理解できる。 ②歯の硬組織疾患の種類と病態および保存修復治療を理解し、「MI(ミニマルインターベンション)の概念とう蝕治療」を説明できる。 ③保存修復治療の診療ステップ、保存修復治療の準備、歯の切削と窩洞形成、歯髄保護および保存修復の種類を理解できる。 ④コンポジットレジン修復法の特徴について学び、治療上の注意点を説明できる。 ⑤セメント修復法の特徴について学び、治療上の注意点を説明できる。 ⑥メタルインレー修復法について学び、説明できる。 ⑦CRインレー修復法、セラミックスインレー修復法、ラミネートベニア修復、合着材および接着材について学び、説明できる ⑧歯髄炎・根尖性歯周炎の分類と症状について学び、それぞれの処置方針を説明できる。 ⑨歯髄鎮痛消炎療法、覆髄法、生活歯髄切断法について学び、その意義と必要な器具を説明できる。 ⑩抜髄法および感染根管治療について学び、その意義と必要な器具を説明できる。 ⑪根管充填について学び、その意義と必要な器具を説明できる。 ⑫外科的歯内療法、歯の外傷および歯内療法における安全対策を学び、その特徴を説明できる。 ⑬歯科ホワイトニングの分類と使用薬剤を学び、注意点や必要な器具について説明できる。 ⑭振り返り、症例検討 ⑮前期末試験の解説・振り返り			
学習上の注意	主にう蝕治療(修復)、および歯髄疾患と根尖性歯周炎(歯内療法)の治療に必要な知識、手順、手技を学習し、治療現場で歯科衛生士としての業務を遂行できる能力を修得する。		
評価方法	期末試験100%		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法(医歯薬出版) 参考書”保存修復学 第7版 医歯薬出版歯内治療学 第5版 医歯薬出版”		

2026S24	専門分野	形式	講義
授業科目名	歯科補綴学	単位数	2
担当教員	中山 和嘉子	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 歯科補綴学とは、う蝕症、歯周病、外傷、などにより、歯質、咬合が崩壊したものを補う治療ための学問である。その方法は、コンポジットレジン充填などの限局的なものから、クラウン・ブリッジ、全部床義歯、部分床義歯、インプラントなど、失われたものを補うことで、「人々が噛めるようになる」治療を行う科目である。補綴の力学関係と、口腔内に装着することでの歯周組織との調和について学ぶ歯科医師が装着した補綴を歯科衛生士がそれを使用し続けられるようにメンテナンスを行う人生を通して歯を使い続けるためのメカニズムとその重要性を学ぶ。 ＊開業医として多くの人々の補綴を行う歯科医師による授業			
【授業計画】 ①【1編】 歯科補綴の治療の基礎 1章 歯科補綴の概要 ②歯科補綴治療の方法と補綴処置 補綴治療における歯科衛生士の役割 ③2章 歯科補綴治療の基礎知識 ④【2編】 歯科補綴治療の実際と歯科医衛生士の役割 1章 歯科補綴治療における検査 ⑤2章 クラウン・ブリッジ治療 Cr&Br 治療の概要 ⑥Cr&Br 治療の流れ 診療の補助 ⑦3章 有床義歯治療 ・ 全部床義歯治療の補助 ⑧全部床義歯の 治療の流れ と 診察の補助 ⑨部分床義歯の治療の概要 ⑩部分床義歯の流れと診療の補助 ⑪4章 インプラント治療 インプラント治療の概要 ⑫インプラント治療の流れと診療の補助 ⑬5章 特殊な口腔内装置を用いる治療 6章 補綴歯科治療における機材の管理 ⑭まとめ ⑮試験の解説、振り返り			
学習上の注意	教科書を繰り返し読む。使用する機材とその意味を覚えることで、日常臨床に直結する学びとなる		
評価方法	本試験(90%) 小テストを含む 授業態度 (10%)		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科医衛生学シリーズ「咀嚼障害・咬合異常1歯科補綴第2版」(医師薬出版社)		

2026S25	専門分野	形式	講義
授業科目名	高齢者歯科学	単位数	2
担当教員	元開 富士雄	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 老化の概念を把握し、老化の社会性と心理と身体におけるプロセスを理解することで、老化における口腔機能の役割の重要性を理解する。また、口腔ケアの2面性を知りセルフブランクコントロールと口腔機能の低下防止の対応ができるようにする。介護者の口腔ケアにおける注意点と口腔ケアの実践を知る。 ＊ 歯科医師として歯科診療所で歯科医療に従事している担当教員による授業。			
【授業計画】 ①超高齢社会と高齢者の環境 ②高齢者の社会保障と地域包括ケアシステム ③身体と心の老化 ① 老化と加齢と免疫 ④身体と心の老化 ② 器官・組織の老化 ⑤身体と心の老化 ③ 脳とこころの老化 小テスト ⑥高齢者の全身疾患 ⑦高齢者の身体評価・薬物への対応 ⑧加齢による口腔内変化 ⑨高齢者の口腔内疾患 小テスト ⑩高齢者歯科医療の場 ⑪高齢者の口腔ケアの基本・全身疾患を持つ介護者の口腔衛生管理 ⑫摂食・嚥下機能のメカニズムと口腔機能システム ⑬摂食・嚥下リハビリテーション ⑭介護保険と高齢者歯科の場における歯科衛生士の役割 ⑮高齢者の口腔管理まとめ（口腔機能システム）			
学習上の注意	講義はスライドおよびプリントによる		
評価方法	本試験およびレポート提出により評価		
教科書 ・ 参考書	教科書”歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学”医歯薬出版		

2026S26	専門分野	形式	講義
授業科目名	障害者歯科学	単位数	2
担当教員	篠塚 修	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 障害の概念を理解するとともに障害の種類、身体的、心理的な特徴を把握する。障害者の歯科診療ならびに口腔衛生指導に必要な基本的知識を習得する。 ＊ 歯科医師として大学病院で歯科治療に従事していた経験を持つ担当教員による授業。			
【授業計画】 ①障害の概念・分類・社会福祉 ②障害者の身体的・心理的特徴(知的能力障害) ③障害者の身体的・心理的特徴(ダウン症候群 ①) ④障害者の身体的・心理的特徴(ダウン症候群 ②) ⑤障害者の身体的・心理的特徴(自閉スペクトラム症 ①) ⑥障害者の身体的・心理的特徴(自閉スペクトラム症 ②) ⑦障害者の身体的・心理的特徴(脳性麻痺・重症心身障害) ⑧障害者の身体的・心理的特徴 (筋ジストロフィー・てんかん) ⑨障害者の身体的・心理的特徴(視覚障害・聴覚障害) ⑩障害者の行動調整法 ① ⑪障害者の行動調整法 ② ⑫地域における障害者歯科・障害者歯科における口腔衛生指導 ⑬摂食嚥下機能の発達と障害 ⑭講義のまとめ ⑮前期期末試験解説			
学習上の注意	講義後は各自復習して下さい。		
評価方法	期末試験に日頃の受講態度等を加味して評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書「歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学第2版」医歯薬出版 参考書「スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科 第2版」医歯薬出版		

2026S27	専門分野	形式	講義
授業科目名	小児歯科学	単位数	2
担当教員		履修年次	2年後期
【授業の概要・到達目標】 口腔から子供を全体として捉えることで包括的な歯科診療体系を実践できるようにする。小児の歯科治療や予防に対する知識だけでなく、子供の背景にある生活や環境から予防を実践できるようにする。また、個々の子供の感覚入力による環境適応能力を把握することで診療がスムーズに運ぶようになることを目指す。 ＊歯科医師として歯科診療所で診療に従事している担当教員による授業			
【授業計画】 ①小児歯科概論 口を通して子供の全体像を掴む ②小児の身体発達と心理発達および機能発達 ③小児の口腔発達① 顔面顎口腔と歯列咬合の発生・発育 ④小児の口腔発達② 乳歯の特徴と発生 ⑤小児の歯と口の疾病① 先天疾患と軟組織疾患 ⑥小児の歯と口腔疾病② 歯列の発育と歯列・咬合異常 ⑦小児の歯と口腔の疾病③ 小児のう蝕 ⑧小児の取り扱い ⑨小児の治療体系と口腔衛生指導と治療計画 ⑩小児の栄養指導と予防 ⑪小児のう蝕治療 ⑫小児のう蝕予防と口腔衛生指導 ⑬小児の咬合管理(咬合誘導と早期治療) ⑭発達障害の概念・発達障害児の取り扱い／口腔習癖 ⑮小児歯科学の実践のまとめ			
学習上の注意	特になし、講義はスライドおよびプリントによる		
評価方法	本試験およびレポート提出により評価		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ 小児歯科(医歯薬出版)		

2026S28	専門分野	形式	講義
授業科目名	歯科矯正学	単位数	2
担当教員	小野 将弘	履修年次	2年後期
【授業の概要・到達目標】 矯正歯科学の定義や知識と概念、治療の必要性、利益とリスクを学習する。また、一般的な矯正治療の流れ、臨床で歯科衛生士が行う手技、業務を学び、患者中心の医療とチーム医療、チームの一員としての歯科衛生士の役割を学ぶ。			
【授業計画】 ①Ⅰ編 矯正歯科治療に関する基礎知識 1章 矯正歯科治療の概要 ②2章 成長発育 前編 ③2章 成長発育 後編 3章 正常咬合と不正咬合 前編 ④3章 正常咬合と不正咬合 後編 ⑤4章 矯正歯科診断 ⑥5章 矯正歯科治療と“力”-矯正力・顎整形力・保定- ⑦6章 矯正装置 ⑧●矯正歯科治療の実際 ・上下顎の前後的關係の不調和 ・上下顎の垂直的關係の不調和(過蓋咬合・開咬) ・成人矯正 ⑨●口腔顔面の形成異常と変形 ●歯の埋伏と歯数の異常 ⑩●中間試験 ●矯正歯科治療時のリスクとトラブルへの対応 ●健康保険が適用される矯正歯科治療 ⑪Ⅱ編 矯正歯科治療と歯科衛生士の役割 1章 矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順 前編 ⑫1章 矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順 後編 ⑬2章 口腔筋機能療法(MFT) ⑭3章 矯正歯科治療における口腔保健管理と指導 4章 矯正歯科治療にかかわる歯科衛生の実践 ⑮●試験解説、まとめ ●マウスピースを用いた矯正治療			
学習上の注意	授業開始時に毎回小テストを行います、出題範囲は原則前回講義分とします。 日頃から復習の習慣を身に着けましょう。		
評価方法	小テスト 10% 中間試験 30% 期末試験 60%		
教科書 ・ 参考書	教科書 歯科衛生学シリーズ 第2版 歯科矯正学 医歯薬出版株式会社		

2026S29	専門分野	形式	講義
授業科目名	口腔外科学	単位数	2
担当教員	土田修史	履修年次	2年後期
【授業の概要・到達目標】 【概要】 歯科衛生業務を行うために必要な、顎口腔領域に生じる各種疾患の特徴や症状、診断法および治療法を理解する。口腔外科手術の準備、介助および片付けがスムーズに実施できる知識を身につける。 【到達目標】 顎・顔面領域の外科的疾患の症状や治療法を理解し、概説できる。臨床において、それぞれの治療について手順や注意を説明できる。 *総合病院等の口腔外科で診療をしていた担当教員による授業			
【授業計画】 ①口腔外科の概要 ②基礎疾患と歯科治療 ③口腔領域の先天異常と発育異常 ④顎・口腔領域の損傷・機能障害 ⑤口腔粘膜の病変 ⑥炎症性疾患 ⑦嚢胞 ⑧顎・口腔領域の腫瘍① ⑨顎・口腔領域の腫瘍② ⑩唾液腺疾患・神経疾患 ⑪顎関節症・血液疾患 ⑫全身疾患による口腔領域の症状 ⑬口腔外科診療の実際 ⑭治療の実際 ⑮前期試験の解説とまとめ			
学習上の注意	口腔領域の外科疾患の特徴を理解するためには、何度も繰り返し勉強することが必要である。講義内容は教科書で予習し、講義が終了した後は復習をすること。確認のために、定期的に小テストを行う。		
評価方法	期末試験(100%)		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」(医歯薬出版)		

2026S30	専門分野	形式	講義
授業科目名	歯科予防処置論Ⅰ	単位数	2
担当教員		履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 【授業概要】 歯科衛生士が行うプロフェッショナルケアは人々の健康の保持増進につながる重要な処置であり、歯科衛生業務の主体となっている。歯科予防処置を行うためには、歯科医学の知識の理解、歯科疾患のメカニズムおよび疾患の進行による変化を理解することが求められている。本講義では、歯科衛生士が行う歯科予防処置の種類を理解するとともに歯科予防処置がどのように健康に繋がるかを学ぶ。 【到達目標】 ・歯科予防処置についての概要と歯科衛生士法の範囲を述べることができる。 ・う蝕と歯周病について概要を理解し説明できる			
【授業計画】 ①歯科予防処置論の概要 ②口腔内の基礎知識 ③歯周病の基礎知識 ④情報収集と評価① ⑤情報収集と評価②(探針) ⑥情報収集と評価③(プロービング) ⑦情報収集と評価④(指標、写真画像の観察・評価) ⑧スケーリング・ルートプレーニング①(スケーリングの基本) ⑨スケーリング・ルートプレーニング②(手用スケーラー) ⑩スケーリング・ルートプレーニング③(機械的スケーラー) ⑪スケーリング・ルートプレーニング④(シャープニング) ⑫歯面研磨・歯面清掃①(歯面研磨・PMTc) ⑬歯面研磨・歯面清掃②(歯面清掃) ⑭メンテナンス ⑮解答・解説			
学習上の注意	・予め教本の対応項目に目を通しておくことが望ましい。 ・課題は提出締め切りを守ること。 ・授業中の電子媒体(スマホ・タブレット・ウェアラブル端末)の使用は教員の許可がない限り、原則禁止とする。		
評価方法	期末試験(80%) 授業態度、提出物等(20%)		
教科書 ・ 参考書	教科書 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」(医歯薬出版) 参考書 歯科衛生学シリーズ「歯周病学 第2版」(医歯薬出版)		

2026S31	専門分野	形式	実習
授業科目名	歯科予防処置論Ⅱ	単位数	2
担当教員	宮崎歌苗・小川磨美	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】			
【授業概要】「歯科予防処置論Ⅰ」にて修得した知識をもとに、歯科予防処置に必要な基礎力として知識、技術、態度の修得を目的とする。			
【到達目標】			
・歯科予防処置の概要を説明できる。 ・歯科予防処置に関する口腔の観察を実施できる。 ・歯周診査器具の操作方法と特徴を説明できる。 ・エクスプローラーを模型上で操作できる。 ・模型上で歯周ポケットを測定できる			
【授業計画】			
①基礎実習ガイダンス① ②基礎実習ガイダンス② ③模型実習 エクスプローリング① ④模型実習 エクスプローリング② ⑤模型実習 プロービング① ⑥模型実習 プロービング② ⑦模型実習 シックルスケーラーの基本操作① ⑧模型実習 シックルスケーラーの基本操作② ⑨模型実習 シックルスケーラーの基本操作③ ⑩模型実習 シックルスケーラーによるスケーリング ⑪模型実習 シックルスケーラー 部位別操作① ⑫模型実習 シックルスケーラー 部位別操作② ⑬模型実習 シックルスケーラー 部位別操作③ ⑭模型実習 シックルスケーラー 部位別操作④ ⑮模型実習 シックルスケーラー 部位別操作⑤ ⑯模型実習 シックルスケーラー 部位別操作⑥ ⑰模型実習 シックルスケーラー 部位別操作の評価とフィードバック① ⑱模型実習 シックルスケーラー 部位別操作の評価とフィードバック② ⑲シックルスケーラーのシャープニング① ⑳シックルスケーラーのシャープニング② ㉑実技総合① ㉒実技総合② ㉓模型実習 キュレットスケーラーの基本操作① ㉔模型実習 キュレットスケーラーの基本操作② ㉕ 相互実習ガイダンス① ㉖相互実習ガイダンス②			
学習上の注意	教科書に目を通し、目的意識をもって授業に臨み、授業受講後は知識および技術の修得に努めること。 実習のルールを厳守すること。 実習態度(身だしなみ等)の準備状況により実習停止とすることがある。マネキンや顎模型		
評価方法	期末試験 60% 実技試験 30% 実習態度(身だしなみを含む), 実習レポート 10%		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 参考書歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)		

2026S32	専門分野	形式	実習
授業科目名	歯科予防処置論Ⅲ	単位数	2
担当教員	富田 そら	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、う蝕予防処置法(フッ化物歯面塗布法・小窩裂溝填塞法)や、う蝕関連項目(う蝕活動性試験・フッ化ジアンミン塗布法・PMTc)の目的,方法,所要条件,実施上の注意事項の知識及び専門的な技術、態度を習得する。 ＊ 歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業			
【授業計画】 ①う蝕予防処置の基礎① ②う蝕予防処置の基礎② ③フッ化物の基礎① ④フッ化物の基礎② ⑤フッ化物の応用① ⑥フッ化物の応用② ⑦フッ化物の応用③ ⑧フッ化物の応用④ ⑨フッ化物歯面塗布① ⑩フッ化物歯面塗布② ⑪フッ化物歯面塗布③ ⑫フッ化物歯面塗布④ ⑬PMTc① ⑭PMTc② ⑮フッ化ジアンミン銀の応用① ⑯フッ化ジアンミン銀の応用② ⑰小窩裂溝填塞① ⑱小窩裂溝填塞① ⑲小窩裂溝填塞② ⑳小窩裂溝填塞② ㉑う蝕活動性試験① ㉒う蝕活動性試験① ㉓う蝕活動性試験② ㉔う蝕活動性試験② ㉕う蝕活動性試験③ ㉖う蝕活動性試験③			
学習上の注意	教科書や授業資料を復習し、知識と技術を身につけること		
評価方法	期末試験(80%)、提出物や授業態度、小テスト等(20%)		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版(全国歯科衛生士教育協議会監修)		

2026S33	専門分野	形式	実習
授業科目名	歯科予防処置論Ⅳ	単位数	2
担当教員	宮崎歌苗	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】			
【授業概要】歯科予防処置論Ⅰ，Ⅱ，Ⅴの基礎力をもとに応用力をつけることを目的とする。相互実習を中心に進むため、生体への配慮の基本を実践しながら歯科予防処置の知識・技術および態度を習得する。			
【到達目標】			
・歯科予防処置の概要を説明できる。 ・歯科予防処置に関する口腔の観察・情報収集・分析ができる。 ・歯科衛生介入である歯石除去・歯面清掃を実践できる。 ・術者・補助者・患者の役割から、人の口腔への理解と歯科衛生士の立場を説明できる			
【授業計画】			
①相互実習 口腔内診査・歯周組織検査(エキスプローリング、プロービング)①1 ②相互実習 口腔内診査・歯周組織検査(エキスプローリング、プロービング)①2 ③相互実習 口腔内診査・歯周組織検査(エキスプローリング、プロービング)②1 ④相互実習 口腔内診査・歯周組織検査(エキスプローリング、プロービング)②2 ⑤相互実習 歯面清掃・歯面研磨法①1 ⑥相互実習 歯面清掃・歯面研磨法①2 ⑦相互実習 歯面清掃・歯面研磨法②1 ⑧相互実習 歯面清掃・歯面研磨法②2 ⑨相互実習 口腔内部位別操作①(前歯部のスケーリング)1 ⑩相互実習 口腔内部位別操作①(前歯部のスケーリング)2 ⑪相互実習 口腔内部位別操作②(前歯部のスケーリング)1 ⑫相互実習 口腔内部位別操作②(前歯部のスケーリング)2 ⑬相互実習 口腔内部位別操作③(臼歯部のスケーリング)1 ⑭相互実習 口腔内部位別操作③(臼歯部のスケーリング)2 ⑮相互実習 口腔内部位別操作④(臼歯部のスケーリング)1 ⑯相互実習 口腔内部位別操作④(臼歯部のスケーリング)2 ⑰相互実習 口腔内部位別操作⑤(臼歯部のスケーリング)1 ⑱相互実習 口腔内部位別操作⑤(臼歯部のスケーリング)2 ⑲相互実習 口腔内部位別操作⑥(臼歯部のスケーリング)1 ⑳相互実習 口腔内部位別操作⑥(臼歯部のスケーリング)2 ㉑相互実習 パワー(機械的)スケーラーによるスケーリング①1 ㉒相互実習 パワー(機械的)スケーラーによるスケーリング①2 ㉓相互実習 パワー(機械的)スケーラーによるスケーリング②1 ㉔相互実習 パワー(機械的)スケーラーによるスケーリング②2 ㉕相互実習 口腔内部位別操作⑦(全顎のスケーリング)1 ㉖相互実習 口腔内部位別操作⑦(全顎のスケーリング)2			
学習上の注意	術者、補助者、患者の役割から得られる気づきを大切に、協力する姿勢やチーム医療の大切さを感じることを重視する。 実習前には事前連絡した項目について教科書該当ページを予習のうえ臨むようにすること。		
評価方法	期末試験 60% ，実技試験 20% 実習態度(身だしなみを含む)，実習レポート 20%		
教科書 ・ 参考書	教科書 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 参考書 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)		

2026S34	専門分野	形式	演習
授業科目名	歯科予防処置論Ⅴ	単位数	2
担当教員	宮崎歌苗	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 「歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ」の基礎力をもとに応用力をつけることを目的とする。概要: 歯科予防処置のための知識と技術を学ぶ。 【到達目標】 ・歯科予防処置に関する口腔の観察、情報収集、分析ができる。 ・手用スケーラーの種類と特徴を説明できる。 ・キュレットタイプスケーラーの操作方法を説明できる。 ・キュレットタイプスケーラーを模型上で操作できる。 ・キュレットタイプスケーラーのシャープニングができる			
【授業計画】 ① 口腔内診査・歯周組織検査(エクスプローリング・プロービング) ②歯面清掃・歯面研磨法① ③歯面清掃・歯面研磨法② ④キュレットスケーラーの基本操作 ⑤キュレットスケーラー 部位別操作① ⑥キュレットスケーラー 部位別操作② ⑦キュレットスケーラー 部位別操作③ ⑧キュレットスケーラー 部位別操作④ ⑨キュレットスケーラー 部位別操作⑤ ⑩キュレットスケーラー 部位別操作⑥ ⑪パワー(機械的)スケーラーによるスケーリング① ⑫パワー(機械的)スケーラーによるスケーリング② ⑬キュレットスケーラーのシャープニング ⑭キュレットスケーラー 部位別操作の評価とフィードバック ⑮総まとめ			
学習上の注意	教科書に目を通し、目的意識をもって授業に臨み、授業受講後は知識および技術の修得に努めること。 実習のルールを厳守すること。 実習態度(身だしなみ等)の準備状況により実習停止とすることがある。マネキンや顎模型		
評価方法	期末試験 80% 実習態度(身だしなみを含む), 実習レポート 20%		
教科書 ・ 参考書	教科書 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 参考書 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)		

2026S35	専門分野	形式	演習
授業科目名	歯科保健指導論Ⅰ	単位数	4
担当教員	小川 磨美・徳永真美子	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、歯科保健指導に必要な知識、技術および態度を習得する。 【到達目標】 1) 歯科保健指導の概要を説明できる。 2) 歯科衛生介入としての歯科保健指導に関して理解できる。 3) 対象者に応じた口腔衛生管理、口腔機能管理、生活習慣指導や食事指導について説明できる。			
【授業計画】 ①予防の概念とわが国の健康施策 ②歯科保健指導論で学ぶこと ③口腔の基礎知識① ④口腔の基礎知識② ⑤う蝕と歯周病の基礎知識① ⑥う蝕と歯周病の基礎知識② ⑦う蝕と歯周病の基礎知識③ ⑧保健行動支援のための基礎知識① ⑨保健行動支援のための基礎知識② ⑩歯科衛生過程の進め方① ⑪歯科衛生過程の進め方② ⑫歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理① ⑬歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理② ⑭歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理③ ⑮歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理④ ⑯分析のためのデータ① ⑰分析のためのデータ② ⑱分析のためのデータ③ ⑲口腔衛生管理に関わる指導 ⑳口腔機能管理に関わる指導 ㉑ 生活習慣の指導① ㉒ 生活習慣の指導② ㉓ 食生活指導① ㉔ 食生活指導② ㉕ 口腔清掃実習①【染め出し】 ㉖ 口腔清掃実習②【染め出し】			
学習上の注意	授業中の電子媒体(スマホ・タブレット・ウェアラブル端末等)の使用は担当教員の許可がない限り、原則禁止。		
評価方法	期末試験100%		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」		

2026S36	専門分野	形式	講義
授業科目名	歯科保健指導論Ⅱ	単位数	2
担当教員	宮崎 歌苗	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 【授業概要】 人々の健康ニーズにあった支援を提供するためには、歯科衛生実践に必要な思考法である歯科衛生過程(対象の抱えている問題を明確化し、解決方法を計画・介入していくために必要な思考と行動のプロセス)を応用し活用する必要がある。歯科衛生過程の一連のプロセスにより、理論的に思考し、問題を解決する知識・技術を理解する。 【到達目標】 ・歯科衛生過程の概念を説明できる。 ・歯科衛生過程の構成要素を説明できる。 ・対象者の情報を分類・整理できる			
【授業計画】 ①保健行動支援のための基礎知識① ②保健行動支援のための基礎知識② ③歯科衛生過程の概要① ④歯科衛生過程の概要② ⑤歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理① ⑥歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理② ⑦歯科衛生過程の進め方① ⑧歯科衛生過程の進め方② ⑨歯科衛生過程の進め方③ ⑩歯科衛生過程の進め方④ ⑪歯科衛生過程の展開① ⑫歯科衛生過程の展開② ⑬歯科衛生過程の展開③ ⑭歯科衛生過程の展開④ ⑮総まとめ			
学習上の注意	・予め教本の対応項目に目を通しておくことが望ましい。 ・講義内容を振り返り、理解の定着を図る。 ・授業内で提示した課題への取り組みを重視する。 ・授業中の電子媒体(スマホ・タブレット・ウェアラブル端末)の使用は教員の許可がない限		
評価方法	期末試験 60% 課題, 授業態度 40%		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		

2026S37	専門分野	形式	演習
授業科目名	歯科保健指導論Ⅲ	単位数	4
担当教員	小川磨美	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 【授業概要】 対象者の健康支援のための情報収集と情報処理、対象者に応じた歯科保健指導について学ぶ。 【到達目標】 ①対象者の健康支援のための情報収集と情報処理について説明できる。 ②対象者に応じた口腔衛生管理、口腔機能管理、生活習慣指導や食事指導について説明できる。			
【授業計画】 ①口腔衛生管理に関わる指導① ②口腔衛生管理に関わる指導② ③口腔機能管理に関わる指導 ④生活習慣の指導① ⑤生活習慣の指導② ⑥食生活指導① ⑦食生活指導② ⑧ストレスマネジメント ⑨ライフステージに対応した歯科衛生介入 ① 妊産婦期① ⑩ライフステージに対応した歯科衛生介入 ① 妊産婦期② ⑪ライフステージに対応した歯科衛生介入 ② 乳児期① ⑫ライフステージに対応した歯科衛生介入 ② 乳児期② ⑬ライフステージに対応した歯科衛生介入 ③ 幼児期① ⑭ライフステージに対応した歯科衛生介入 ③ 幼児期② ⑮ライフステージに対応した歯科衛生介入 ④ 学齢期① ⑯ライフステージに対応した歯科衛生介入 ④ 学齢期② ⑰ライフステージに対応した歯科衛生介入 ⑤ 思春期・青年期① ⑱ライフステージに対応した歯科衛生介入 ⑤ 思春期・青年期② ⑲ライフステージに対応した歯科衛生介入 ⑥ 成人期① ⑳ライフステージに対応した歯科衛生介入 ⑥ 成人期② ㉑ ライフステージに対応した歯科衛生介入 ⑦ 高齢期① ㉒ ライフステージに対応した歯科衛生介入 ⑦ 高齢期② ㉓ 配慮を要する者への歯科衛生介入 ① 要介護高齢者① ㉔ 配慮を要する者への歯科衛生介入 ① 要介護高齢者② ㉕ 配慮を要する者への歯科衛生介入 ② 障害児者① ㉖ 配慮を要する者への歯科衛生介入 ② 障害児者②			
学習上の注意	授業中の電子媒体(スマートフォン・タブレット・ウェアラブル端末)の使用について、担当教員の許可がない限り、原則禁止。		
評価方法	期末試験100%		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版(医歯薬出版)		

2026S38	専門分野	形式	実習
授業科目名	歯科保健指導論Ⅳ	単位数	2
担当教員	小川磨美	履修年次	3年前期
【授業の概要・到達目標】			
【授業概要】地域歯科保健活動における健康教育について学ぶ。			
【到達目標】			
①地域歯科保健活動について説明できる。 ②対象者に応じた健康教育について説明できる。			
【授業計画】			
①地域歯科保健活動における健康教育① ②地域歯科保健活動における健康教育② ③地域歯科保健活動における健康教育③ ④地域歯科保健活動における健康教育④ ⑤地域歯科保健活動における健康教育⑤ ⑥地域歯科保健活動における健康教育⑥ ⑦指導案作成(幼稚園実習)① ⑧指導案作成(幼稚園実習)② ⑨シナリオ作成(幼稚園実習)① ⑩シナリオ作成(幼稚園実習)② ⑪媒体作成(幼稚園実習)① ⑫媒体作成(幼稚園実習)② ⑬媒体作成(幼稚園実習)③ ⑭媒体作成(幼稚園実習)④ ⑮媒体作成(幼稚園実習)⑤ ⑯媒体作成(幼稚園実習)⑥ ⑰ 媒体作成(幼稚園実習)⑦ ⑱媒体作成(幼稚園実習)⑧ ⑲媒体作成(幼稚園実習)⑨ ⑳媒体作成(幼稚園実習)⑩ ㉑ 予演会(幼稚園実習)① ㉒ 予演会(幼稚園実習)② ㉓ 予演会(幼稚園実習)③ ㉔ 予演会(幼稚園実習)④ ㉕ 予演会(幼稚園実習)⑤ ㉖ 高齢者の機能評価①			
学習上の注意	授業中の電子媒体(スマートフォン・タブレット・ウェアラブル端末等)の使用について、担当教員の許可がない限り、原則使用禁止。		
評価方法	期末試験100% グループワークにおいて参加しない、迷惑行為などを行った場合は総点数から減点します。		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版(医歯薬出版)		

2026S39	専門分野	形式	講義
授業科目名	歯科保健指導論Ⅴ(栄養指導を含む)	単位数	2
担当教員	元開 富士雄	履修年次	3年後期
【授業の概要・到達目標】 栄養と健康・疾病の関係性を理解し、口腔疾患を持つ患者の食生活習慣を改善させるための行動変容理論を習得する。また、ライフステージごとの栄養に関わる知識を習得し、臨床の場で適切な指導ができるようになることを目指す。また、スポーツ競技者の栄養管理ならびに顎運動リハビリと筋機能療法の理解を目指す。 ＊ 歯科医師として歯科診療所で歯科医療に従事している担当教員による授業。			
【授業計画】 ①食生活の基礎知識(食の変遷、健康日本②①と食育基本法)、行動変容の基礎知識 ②食生活と生活習慣病に関わる口腔疾患 ③妊産婦・新生児・乳幼児の栄養管理と栄養指導 ④乳幼児の食生活指導の実践 ⑤学童期・青年期・成人の栄養管理と栄養指導 ⑥老人期・障害児者の栄養管理と栄養指導 ⑦高齢者の食生活指導の実践 ⑧嚥下障害と睡眠障害への対応 ⑨アスリートの口腔疾患とスポーツ栄養管理成人・ ⑩全身運動と顎運動間の遠心促通、噛みしめの効果 ⑪スポーツ外傷とマウスピース・マウスガードの作成法 ⑫顎運動機能の評価と顎機能のリハビリと筋機能訓練(MFT) ⑬小児の口腔管理と指導(小児歯科学国試対策) ⑭高齢者の口腔管理と指導(高齢者歯科国試対策) ⑮まとめ、国試対策			
学習上の注意			
評価方法			
教科書 ・ 参考書			

2026S40	専門分野	形式	講義
授業科目名	歯科診療補助論Ⅰ	単位数	2
担当教員	徳永真美子	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】			
歯科診療の補助を行う上での基本的な専門知識を習得する。 ①歯科診療補助の規定および業務範囲を理解する。 ②滅菌・消毒・洗浄の基本を習得する。 ③標準予防策や偶発事故の防止について理解、対応できる。 ④廃棄物の処理方法など診療室の管理ができる能力を養う。 ⑤歯科衛生士として周囲と円滑なコミュニケーションを図るための基本的な作法を習得する。 ＊歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業			
【授業計画】			
①オリエンテーション・歯科衛生士の役割 ②歯科診療補助の概要 ③医療安全 ④感染予防 ⑤手指消毒 ⑥滅菌と消毒① ⑦滅菌と消毒② ⑧診療室の環境と整備 ⑨患者対応 ⑩衛生材料・切削器具 ⑪共同動作① ⑫共同動作② ⑬1～12まとめ ⑭期末試験対策 ⑮期末試験解説			
学習上の注意	予習は教科書一読しておく。 復習は教科書・配布プリント・ノートを中心に行う。		
評価方法	期末試験(100%)		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』『歯科材料』(医歯薬出版株式会社)		

2026S41	専門分野	形式	講義
授業科目名	歯科診療補助論Ⅱ(講義)	単位数	2
担当教員	徳永真美子	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 実習を通じて、歯科材料や器具の取り扱いについての基礎的な理論と技術を習得する。 ①各衛生材料の作成と準備を行える。 ②歯科材料を適切に取り扱うことができる。 ③診療の補助における基本的な技術を習得する。 ＊歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業			
【授業計画】 ①共同動作復習 ②合着材・接着材 ③印象材 ④模型材 ⑤スタディモデル作製 ⑥ プロビジョナルレストレーション ⑦仮封と仮着 ⑧口腔内写真撮影 ⑨前準備(ラバーダム防湿) ⑩前準備(隔壁・歯間分離) ⑪歯周外科(歯周パッキ材) ⑫歯科用ワックス ⑬1～12まとめ ⑭期末試験対策 ⑮期末試験解説			
学習上の注意	予習は教科書を一読しておく。		
評価方法	期末試験(100%)		
教科書 ・ 参考書	教科書歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 『歯科材料』(医歯薬出版株式会社)		

2026S42	専門分野	形式	実習
授業科目名	歯科診療補助論Ⅱ(実習)	単位数	2
担当教員	徳永真美子・宮崎歌苗	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 実習を通じて、歯科材料や器具の取り扱いについての基礎的な理論と技術を習得する。 ①各衛生材料の作成と準備を行える。 ②歯科材料を適切に取り扱うことができる。 ③診療の補助における基本的な技術を習得する。 ＊歯科衛生士として臨床経験をもつ教員による授業			
【授業計画】 ①歯科材料の管理・小材料作製法① ②歯科材料の管理・小材料作製法② ③印象材① ④印象材② ⑤合着材・接着材① ⑥合着材・接着材② ⑦印象材③ ⑧印象材④ ⑨印象材⑤ ⑩印象材⑥ ⑪スタディモデル作製① ⑫スタディモデル作製② ⑬スタディモデル作製③ ⑭スタディモデル作製④ ⑮印象材⑦ ⑯印象材⑧ ⑰仮封材① ⑱仮封材② ⑲仮封材③ ⑳仮封材④ ㉑プロビジョナルレストレーション① ㉒プロビジョナルレストレーション② ㉓ラバーダム防湿① ㉔ラバーダム防湿② ㉕口腔内写真撮影法① ㉖口腔内写真撮影法②			
学習上の注意	予習は教科書・配布資料で行う。 復習は、授業プリントを中心に行い、実習内容を整理しておく。		
評価方法	期末試験(90%)、レポート提出・実習態度(10%)による総合評価		
教科書 ・ 参考書	教科書”歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 『歯科材料』(医歯薬出版株式会社)”		

2026S43	専門分野	形式	実習
授業科目名	歯科診療補助論Ⅲ	単位数	2
担当教員	徳永真美子小川磨美	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】			
専門的な歯科診療の補助に対応するために必要な知識、技能及び態度を身につける。			
【授業計画】			
①オリエンテーション・歯科診療補助Ⅲ概要 ②歯科診療補助Ⅰ、Ⅱの復習 ③バキュームテクニックの基本、禁忌部位、口腔内洗浄：相互実習 ④バキュームテクニックの基本、禁忌部位、口腔内洗浄：相互実習 ⑤直接修復（3級窩洞CR充填）：マネキン実習 ⑥直接修復（3級窩洞CR充填）：マネキン実習 ⑦間接修復（2級窩洞精密印象採得、バイト、対合歯印象採得、石膏注入）：マネキン実習 ⑧間接修復（2級窩洞精密印象採得、バイト、対合歯印象採得、石膏注入）：マネキン実習 ⑨2級窩洞インレー試適、セット、余剰セメント除去：マネキン実習 ⑩2級窩洞インレー試適、セット、余剰セメント除去：マネキン実習 ⑪ホワイトニング ⑫ホワイトニング ⑬麻酔抜髄法の手順、使用器具器材 ⑭麻酔抜髄法の手順、使用器具器材 ⑮根管充填の手順、使用器具器材 ⑯根管充填の手順、使用器具器材 ⑰普通抜歯の術式、使用器具器材 ⑱普通抜歯の術式、使用器具器材 ⑲埋伏抜歯の術式、使用器具器材 ⑳埋伏抜歯の術式、使用器具器材 ㉑局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔・伝達麻酔）の準備 ㉒局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔・伝達麻酔）の準備 ㉓ 矯正用器具 ㉔矯正用器具			
学習上の注意			
評価方法	期末試験（100％）		
教科書 ・ 参考書	歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』『歯科材料』（医歯薬出版株式会社）		

2026S44	専門分野	形式	演習
授業科目名	歯科放射線学・歯科麻酔学	単位数	2
担当教員	村上 昌隆	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 【概要】 放射線および歯科麻酔(局所・全身)に関する正しい知識を習得し、歯科臨床において業務に従事するための基礎的な学力を身につける。 【到達目標】 放射線発生装置の構造・原理・取り扱い方法を理解し、安全かつ円滑に業務を行うため歯科衛生士としての役割を学習する。局所麻酔や全身麻酔において、取り扱いや使用方法を理解し、臨床において補助業務ができるようになる。 ※口腔外科治療の臨床をしている担当教員による授業			
【授業計画】 ①2章 口腔法エックス線撮影(前編) ②2章 口腔法エックス線撮影(後編) ③3章 パノラマエックス線撮影法 ④4章 歯科用コーンビームCT ⑤1章 放射線と歯科医療 ⑥5章 その他の画像検査法 ⑦6章 歯科エックス線画像の観察 ⑧7章 がんの放射線治療と口腔健康管理 ⑨小テスト(歯科放射線学) ⑩解説 ⑪2章 局所麻酔 ⑫4章 全身麻酔 ⑬小テスト(歯科麻酔学) ⑭解説 ⑮前期試験の解説とまとめ			
学習上の注意	授業の予習・復習を心がけ、分からないところは積極的に質問をおこなうようにする。		
評価方法	期末試験(80%)・小テスト(20%)		
教科書 ・ 参考書	教科書・参考書”歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学(医歯薬出版) ”		

2026S45	専門分野	形式	実習
授業科目名	臨地実習Ⅰ	単位数	9
担当教員	小川磨美、宮崎歌苗、徳永真美子	履修年次	2年後期
【授業の概要・到達目標】 臨床の現場で歯科衛生士の基本姿勢を学習し、歯科衛生士業務を学ぶ。 ＊歯科衛生士として歯科診療補助の経験を持つ教員および歯科医師として歯科診療に従事していた経験を持つ教員が担当			
【授業計画】 ー臨地実習の目的・目標ー 1. 医療人としての基本姿勢 1) 身だしなみ、姿勢、言葉使いに気をつけて行動することができる。 2) 実習施設の守秘義務を順守することができる。 3) 患者に対して共感的態度で接することができる。 4) スタッフに対して、感謝と敬意を表すことができる。 5) 実習に積極的に参加し、自ら調べ質問することができる。 2. 学習目標 1) 口腔保健を担う専門職として必要な知識を身に付ける。 2) 歯科衛生士の役割と仕事を理解する。 3) コミュニケーション能力を養う。 3. 学習内容 1) 診療に必要な器具・器材・材料を準備することができる。 2) 診療に必要な器具・器材・材料の性質・用途を述べることができる。 3) 患者への対応を適切に行うことができる。 4) 標準予防策を理解する。 5) 医療廃棄物の取り扱いができる。 6) 処置内容を説明できる。 4. 実習場所 東京都、埼玉県及び神奈川県内の歯科診療所			
学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を復習しておく。		
評価方法	実習先評価100%		
教科書 ・ 参考書			

2026S46	選択必修分野	形式	実習
授業科目名	臨地実習Ⅱ	単位数	11
担当教員	小川磨美、宮崎歌苗、徳永真美子	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】 口腔の専門職として、責任感、誠実性、積極性、協調性、判断力を培い、実践できる能力を養う。コメディカルの一員としての行動を身につける。 ＊歯科衛生士として歯科診療補助の経験を持つ教員及び歯科医師として歯科診療に従事していた経験を持つ教員が担当。			
【授業計画】 ー臨地実習の目的・目標ー 1. 医療人としての基本姿勢 1) 身だしなみ、姿勢、言葉使いに気をつけて行動することができる。 2) 実習施設の守秘義務を順守することができる。 3) 患者や入所者を尊重し、受容的・共感的態度で接することができる。 4) 実習先のスタッフに対して、感謝と敬意を表すことができる。 5) 実習に積極的に参加し、自ら調べ質問することができる。 2. 学習目標 1) 口腔保健を担う専門職として必要な知識を身に付ける。 2) 実習場所で働く歯科衛生士や他のスタッフの役割と仕事を理解する。 3) 保健・医療・介護・福祉の場において多種職と協働する能力を身につける。 3. 学習内容 1) 生活習慣などの情報を収集することができる。 2) 得られた情報から問題点を説明できる。 3) 口腔疾患と全身疾患の関係を説明できる。 4) 歯面清掃等の予防処置ができる。 5) 対象者に必要な口腔保健指導ができる。 6) バイタルサインが説明でき、測定できる。 7) 検査値が理解できる。 8) 患者の状態に応じた対応ができる。 9) 周術期管理について説明できる。 10) 園児の心身の発達と口腔内の状態を説明できる。 11) 園児に保健指導ができる。 12) 高齢者に対して口腔ケアプランを作成することができる。 13) 摂食・嚥下リハビリテーションについて基礎的知識を述べることができる。 14) 高齢者の全身疾患と内服薬との関係を述べることができる。			
学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を復習しておく。		
評価方法	実習先評価100%		
教科書 ・ 参考書			

2026S47	選択必修分野	形式	演習
授業科目名	総合歯科医学演習	単位数	8
担当教員	和氣 朋、荒川 真、湯田 徳行、小田 祐樹、藤澤 秀男、水田 佳多、土田 修由、小川 麻美、宮崎 敬吾、徳永 直	履修年次	3年後期
【授業の概要・到達目標】 これまでに学修した内容を総括すると同時に、演習を交えることにより理解を深めることを目的とする。 ＊歯科衛生士として歯科診療補助の経験を持つ教員及び歯科医師として歯科診療に従事していた経験を持つ教員による授業			
【授業計画】 ①勉強の取り組み方 ②予防処置総論 ③う蝕学の基礎 ④歯周病学の基礎 ⑤歯科予防処置① ⑥歯科保健指導論① ⑦地域歯科保健 ⑧在宅訪問歯科 ⑨歯科診療補助① ⑩歯科診療補助② ⑪歯科保健指導論② ⑫歯科保健指導論③ ⑬臨床歯科総論① ⑭全身管理 ⑮救急救命処置 ⑯口腔解剖学① ⑰口腔解剖学② ⑱歯科予防処置② ⑲歯磨剤 ⑳歯磨剤 ㉑歯科保健指導論④ ㉒歯科保健指導論⑤ ㉓臨床科目（臨床検査） ㉔歯科診療補助③ ㉕歯科診療補助④ ㉖口腔解剖学③			
学習上の注意	これまでに学んだ事項を復習しておく		
評価方法	総合期末試験(100%)		
教科書 ・ 参考書			

2026S48	選択必修分野	形式	演習
授業科目名	介護技術	単位数	2
担当教員	小川磨美	履修年次	3年前期
【授業の概要・到達目標】			
【授業概要】 歯科衛生士として、高齢者に対する安全で安楽な支援を提供するためには、その対象を理解するとともに、その対象に応じた支援が求められている。 【到達目標】 高齢者の特性を理解できる。 対象者に応じた安心、安全な支援を行うことができる。			
【授業計画】			
①対象者の理解 ②対象者の状態把握① ③対象者の状態把握② ④高齢者疑似体験① ⑤高齢者疑似体験② ⑥認知症① ⑦認知症② ⑧在宅歯科診療① ⑨在宅歯科診療② ⑩UDF食実習①(株式会社キューピー) ⑪UDF食実習②(株式会社キューピー) ⑫バイタルサイン ⑬標準予防策① ⑭標準予防策② ⑮まとめ			
学習上の注意	本授業は、講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、技術演習等を含めた形式で実施する。主体的に授業に臨むこと。		
評価方法	期末試験80%、授業態度20%		
教科書 ・ 参考書			

2026S49	選択必修分野	形式	講義
授業科目名	スポーツ科学	単位数	2
担当教員	元開 富士雄、又吉啓太	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 からだの構造や仕組みを学び、科学的な視点から身体運動を捉え、日常生活、スポーツ活動中の外傷や疾患、応急処置の理解を深める。 ＊柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員と、歯科医師として歯科診療所で歯科治療に従事している担当教員による授業。			
【授業計画】 ①運動器のしくみと機能(骨) ②運動器のしくみと機能(関節・関節運動) ③運動器のしくみと機能(上肢の筋) ④運動器のしくみと機能(下肢・体幹の筋) ⑤スポーツ活動中の外科的疾患① ⑥スポーツ活動中の外科的疾患② ⑦スポーツ活動中の内科的疾患① ⑧小テスト/スポーツ活動中の内的疾患② ⑨応急処置(RICE処置・救急時の対応・CPR) ⑩スポーツ歯科医学の概念,アスリートの口腔疾患と口腔管理 ⑪アスリートの栄養管理、スポーツ飲料と口腔疾患 ⑫全身運動と顎運動との関係,顎運動のバイオメカニクス ⑬顎運動機能の評価,顎機能のリハビリ ⑭スポーツ外傷と対応、マウスガードの目的と種類、マウスガードの選択、作成法 ⑮前期末試験解説			
学習上の注意	積極的な姿勢で授業に臨むこと。		
評価方法	前期末試験の点数のみで評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書なし。		

2026S50	選択必修分野	形式	講義
授業科目名	臨床検査	単位数	2
担当教員	小林隆志	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 【概要】 医療従事者(歯科衛生士)として医療現場で実施されている臨床検査の概要を理解し、基本的な臨床検査の知識を修得する。また、歯科臨床における歯科的検査の意義と方法を理解する。 【到達目標】 1) 臨床検査の意義、基準範囲の考え方が説明できる 2) バイタルサインの測定法を説明できる 3) 生体検査の種類や検査項目を列挙できる 4) 検体検査の種類とその検体の種類(材料)を列挙できる 5) 口腔領域検査の種類とその方法を列挙できる			
【授業計画】 ①臨床検査の種類、基準値の概念 ②生体検査(バイタルサイン) ③生体検査(循環器脈管系の検査) ④生体検査(呼吸器系の検査・画像検査) ⑤検体検査(血液検査) ⑥検体検査(生化学検査) ⑦検体検査(肝機能・腎機能の検査) ⑧検体検査(糖尿病の検査) ⑨検体検査(代謝・内分泌疾患の検査) ⑩検体検査(感染症の検査) ⑪検体検査(免疫学的検査) ⑫検体検査(病理学的検査・悪性腫瘍の検査) ⑬口腔領域の臨床検査 ⑭摂食嚥下障害の検査 ⑮前期試験の解説と総まとめ			
学習上の注意	学習する内容が多いので、講義後は教科書とプリントを再度確認すること。		
評価方法	期末試験(100%)		
教科書 ・ 参考書	教科書・参考書 歯科衛生学シリーズ 臨床検査 (医歯薬出版)		

0	0	形式	0
授業科目名	0	単位数	0
担当教員	0	履修年次	0
【授業の概要・到達目標】			
0			
【授業計画】			
0			
学習上の注意	0		
評価方法	0		
教科書 ・ 参考書	0		

0	0	形式	0
授業科目名	0	単位数	0
担当教員	0	履修年次	0
【授業の概要・到達目標】			
0			
【授業計画】			
0			
学習上の注意	0		
評価方法	0		
教科書 ・ 参考書	0		

0	0	形式	0
授業科目名	0	単位数	0
担当教員	0	履修年次	0
【授業の概要・到達目標】			
0			
【授業計画】			
0			
学習上の注意	0		
評価方法	0		
教科書 ・ 参考書	0		

0	0	形式	0
授業科目名	0	単位数	0
担当教員	0	履修年次	0
【授業の概要・到達目標】			
0			
【授業計画】			
0			
学習上の注意	0		
評価方法	0		
教科書 ・ 参考書	0		

0	0	形式	0
授業科目名	0	単位数	0
担当教員	0	履修年次	0
【授業の概要・到達目標】			
0			
【授業計画】			
0			
学習上の注意	0		
評価方法	0		
教科書 ・ 参考書	0		
0	0	形式	0

授業科目名	0	単位数	0
担当教員	0	履修年次	0
【授業の概要・到達目標】			
0			
【授業計画】			
0			
学習上の注意	0		
評価方法	0		
教科書 ・ 参考書	0		
0	0	形式	0
授業科目名	0	単位数	0

担当教員	0	履修年次	0
【授業の概要・到達目標】			
0			
【授業計画】			
0			
学習上の注意	0		
評価方法	0		
教科書 ・ 参考書	0		